

400年遠忌記念特別展  
大名茶人 織田有楽斎

2023年4月22日(土)～6月25日(日)

織田信長の弟、長益は織田、豊臣、徳川の3天下人に仕えて時流を乗り切った武人でした。「逃げた男」と揶揄されながら、余生は茶人「有楽斎」として京に隠棲し、正伝院を再興した文化人でもあります。有楽斎の400年遠忌にあたり、現在も墓を守っている建仁寺塔頭・正伝永源院に伝わる文化財を再度調査しました。ここで得られた知見をもとに、織田有楽斎という人物を今一度捉え直す展覧会です。



古淵慈稲齋・狩野山楽筆  
「織田有楽斎像」  
正伝永源院蔵

発掘された珠玉の名品 少女たち  
一夢と希望・そのはざままで 星野画廊コレクションより

2023年7月15日(土)～9月10日(日)

明治、大正、昭和……。時代のうねりの中で、いつしか忘れてしまった実力ある画家たち。本展では、彼らが遺した素晴らしい作品を見つけ出し、紹介してきた星野画廊のコレクションから、「少女たち」をテーマに紹介します。女性たちの人生のさまざまなが描かれた日本画と洋画、約120点を展示しますので、作品の放つ魅力を存分にお楽しみください。



岡本神章《春の舞妓》1922年頃

もしも猫展

2023年9月23日(土)・祝～11月12日(日)

「もしも、うちの猫が人のように話したら?」そんな想像をしたことはありませんか。天保12年(1841)頃から、浮世絵師の歌川国芳は猫を擬人化した絵や、歌舞伎役者を猫で描いた戯画(滑稽な絵)を次々と発表していきます。本展覧会では猫の擬人化作品と、それらを描いた国芳を主軸に据え、江戸時代の擬人化表現の面白さに着目していきます。



梅窓《新板猫の勉強学校》(部分) 個人蔵

異界へのまなざし  
一妖と魔よけの世界-

2023年11月25日(土)～2024年1月8日(月)・祝

古来人びとは災害や疫病など人智を超えた現象を異界の住人の仕業と考えてきました。目には見えない世界を想像たくましく描き、そしてさまざまな魔よけやまじないの作法を編み出して戦ってきたのです。この展覧会では、人びとが恐ろしい異界からの接近に対処してきた様相を、京都府の所蔵資料によって紹介します。



『土蜘蛛之草紙』(部分) 京都府立京都学・歴史館蔵

『シュルレアリスム宣言』100年  
シュルレアリスムと日本

2023年12月16日(土)～2024年2月4日(日)

20世紀最大の芸術運動「シュルレアリスム」。フランスに始まり各地の芸術、思想、文化に影響を及ぼした運動は、日本の芸術家たちをも魅了します。『シュルレアリスム宣言』の発表から100年を記念する本展では、主にシュルレアリスムの影響を受けた日本の絵画作品を通して、多様なイメージの展開をご紹介しますと同時に、彼らが生きた時代を振り返ります。



© Sompo Museum of Art, 2024  
東郷青児《超現実派の散歩》1929年 油彩・キャンバス  
SOMPO美術館蔵

Kyoto Art for Tomorrow 2024 一京都府新鋭選抜展-

2024年1月20日(土)～2月4日(日)

コスチュームジュエリー  
美の変革者たち シャネル、ディオール、スキャパレリ  
小瀧千佐子コレクションより

2024年2月17日(土)～4月14日(日)

コスチュームジュエリーの世界的コレクターで研究家でもある小瀧千佐子氏の貴重なコレクションを通して、宝石や貴金属などの従来の素材にとらわれず自由にデザインされたコスチュームジュエリーの世界を紹介します。



シャネル《ネックレス「花」モチーフ》1930年代  
ガラス、メタル【製作：メゾン・グリゴワ】

	2023	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2024	1	2	3
4F			大名茶人 織田有楽斎			少女たち 星野画廊コレクションより		もしも猫展			シュルレアリスムと日本			コスチュームジュエリー 美の変革者たち
3F										異界へのまなざし一妖と魔よけの世界-		京都府新鋭選抜展		
2F		桃山陶器に出会う 桃山デザイン		足利将軍、戦国を駆ける!		徳川家康とその時代		近衛家 王朝のみやび 陽明文庫の名宝13 池大雅展 一あるコレクターの視点		日本考古学の鼻祖 藤 貞幹展		紫式部と『源氏物語』		
		近現代の型染		祇園祭 一足利将軍が見た山鉾巡行一		いけばなの世界展		町のちからII 一阪東屋町文書の世界一		シュルレアリスムと京都		雛人形名品展		

2階総合展示室

桃山陶器に出会う 桃山デザイン  
2023年4月8日(土)～6月4日(日)

おおらかで伸びやかな風合いをもつ桃山陶器。京都市立芸術大学とのコラボ企画で、その多様な魅力をお楽しみください。



織田向付  
京三条せと物や町(中之町)出土  
桃山時代 京都市蔵

近現代の型染  
2023年4月15日(土)～6月11日(日)

京都府所蔵作品をとおして、型を用いる染色の世界の広がりをご紹介します。



霞に春秋草文様着尺(復元)  
2011年

～室町幕府滅亡後450年～  
足利将軍、戦国を駆ける!  
2023年6月10日(土)～8月6日(日)

時は戦国京都。生き残りの道を模索し続けながら乱世の荒波に立ち向かった、個性豊かな足利将軍たちの軌跡を辿ります。



国宝 東寺百合文書のうち足利義晴御判御教書(大永7年)  
京都府立京都学・歴史館蔵(画像は東寺百合文書WEB)

～室町幕府滅亡後450年～  
祇園祭  
一足利将軍が見た山鉾巡行一  
2023年6月17日(土)～8月13日(日)

室町幕府滅亡から今年で450年になるのを記念し、祇園祭の山鉾巡行を見物した足利将軍の様相を、当時書かれた資料の内容から紹介するとともに、新しく京都府に収蔵された祇園祭関係資料も展示します。



放下鉾模型

徳川家康とその時代  
2023年8月11日(金)・祝～10月1日(日)

室町幕府が滅亡した後、織田信長や豊臣秀吉の政権を経て、次の幕府を開いた徳川家康の足跡を、京都府所蔵の資料からたどります。



「徳川家康像」(部分)

いけばなの世界展  
2023年8月19日(土)～10月15日(日)

和の心を継承するいけばな。仏教の伝来とともに仏花から始まり江戸初期には立花の様式が確立されます。旧宮本溪雄コレクションを中心に、いけばなの歴史に触れます。



大住院以信「立花砂物図」 延宝6年(1678)  
京都府立京都学・歴史館蔵

池大雅展  
一あるコレクターの視点  
2023年10月7日(土)～12月3日(日)

当館が毎年開催している池大雅展は、池大雅美術館から資料を一括寄贈されたことに始まりました。120年前に誕生したコレクターの見た大雅像、コレクションの成り立ちをご覧ください。



月峰「池大雅像」  
池大雅美術館  
コレクション

近衛家 王朝のみやび 陽明文庫の名宝13  
2023年10月7日(土)～12月3日(日)

公家の名家、近衛家に伝わった平安時代以来の貴重な資料の中から、国宝「御堂関白記」を始めとする選りすぐりの名品を紹介します。



近衛信尹筆「源氏物語和歌色紙貼交屏風」 陽明文庫蔵

町のちからII 一阪東屋町文書の世界一  
2023年10月21日(土)～12月17日(日)

江戸時代の京都の基礎単位である町には、町の運営の記録群ともいえる「町有文書」が蓄積されました。近年の調査で阪東屋町(東洞院錦南下ル両側町)に関する町有文書が新たに確認されました。本展ではこの文書群を通して江戸時代の町の実態について考えます。



現代の阪東屋町の風景

日本考古学の鼻祖 藤 貞幹展  
2023年12月9日(土)～2024年2月4日(日)

近世考古学の第一人者とも評される藤貞幹。考古学史研究に定評のある京都木曜クラブと共に、貞幹の事績を丁寧に読み解きます。



『好古日録』古瓦文字(部分) 江戸時代

シュルレアリスムと京都  
2023年12月23日(土)～2024年2月18日(日)

1930年代、シュルレアリスムは京都の画家たちにも強い影響を与えます。絵画作品と関連資料を通して、京都におけるシュルレアリスムの受容と展開、描かれた作品の可能性を探ります。



小牧源太郎《民族病理学(祈り)》  
1937年 京都市美術館蔵

紫式部と『源氏物語』  
2024年2月10日(土)～4月7日(日)

紫式部の生きた時代の様相を資料によって紹介するとともに、重要文化財の『源氏物語』(大島本)を中心に、物語から紡ぎ出された美術品を展示して、その世界観をご堪能ください。



重要文化財「源氏物語」大島本  
古代学協会蔵

雛人形名品展  
2024年2月24日(土)～4月7日(日)

京都府所蔵の雛人形から、今年も優品を紹介します。



雛人形(古今雛) 江戸時代後期

※年間スケジュールの情報については主催者の都合で変更になる場合があります。※2階総合展示は、期間中展示替のため休室する場合があります。特に所蔵表記のないものは京都府蔵(京都文化博物館管理)。※各展覧会の詳細は当館HPでご確認ください。